

## エンジンオイル量の確認方法

所要時間：5分

必要な道具：オイル、オイルジョッキ、ウエス

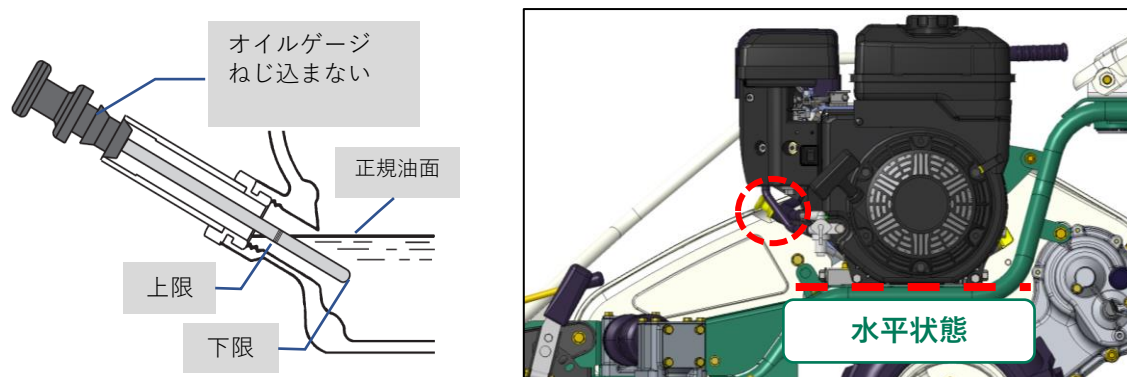
※エンジンオイル量の過不足は、エンジンの焼き付きなどの故障や不調の原因となります。  
エンジンオイルは消耗します。必ず始業前にオイルの量と質の確認を行ってください。  
作業後の確認は、オイル量を正しく確認できない場合がありますので注意してください。

### ① 製品を平らなところに置き、エンジンベースが地面と水平であることを確認する。



※エンジンベースが前後及び左右方向に水平でない場合、オイルを正しく確認できないので注意してください。オイル量はエンジン型式で異なりますので、詳細は取扱説明書を参照してください。

### ② オイルゲージを引き出して、ウエスでふき取った後に下図のように差してオイル量を確認する。



- ・オイルの量が不足している場合は、継ぎ足して適量になるように調節してください。
- ・オイルの色が黒く汚れている場合は、継ぎ足しをせずに交換してください。
- ・オイルゲージの位置及び形状は製品型式で異なります。詳細は取扱説明書を参照してください。

※設備・道具がない場合はお近くの販売店にご依頼ください。

## グリースの注油方法

所要時間：5分

必要な道具：グリースガン、グリース、ウェス

※各作動部のグリースや潤滑油不足は、部品の個着などの**故障や不調の原因となります**。  
グリースや潤滑油は消耗します。必ず始業前に作動部の動作確認を行ってください。  
注油はベルトやプーリーなど動力伝達部に油分が付着しないように注意してください。  
万一、油分が付着した場合には油分を取り除いてください。

### ① 機体を平らなところに置き、グリースニップルと、注油位置を確認する

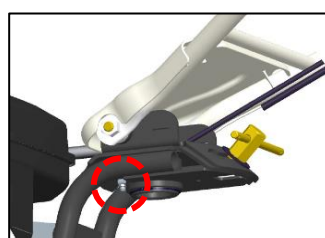
前輪ギヤボックス



後輪ギヤボックス



ハンドル下回転部



※機種によってグリースニップルが付いている場所や数量が異なります。また、グリースを注入前にエア抜きプラグを緩めて圧力を逃がす場所があります。詳細は取扱説明書で事前にご確認ください。  
※グリスを注入する前に、機体が倒れないように安定した状態に固定してあることを確認ください。

### ② グリースガンをグリースニップルに押し当てて、グリースを注入してください。余分なグリースは拭き取り、部品を取外した場合は元通り取付てください。



グリースニップル



グリースガン

※ エアが入った状態では、グリースが上手く出ない場合があります。グリースガンのエア抜きを十分に行って、グリースが出るのを確認してください。

※設備・道具がない場合はお近くの販売店にご依頼ください。

## エンジンオイル量の確認方法

所要時間：5分

必要な道具：オイル、オイルジョッキ、ウエス

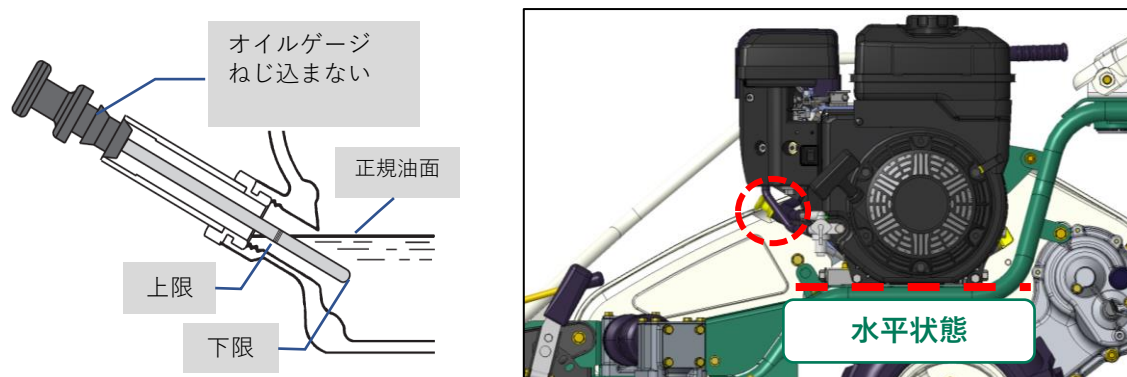
※エンジンオイル量の過不足は、エンジンの焼き付きなどの故障や不調の原因となります。エンジンオイルは消耗します。必ず始業前にオイルの量と質の確認を行ってください。作業後の確認は、オイル量を正しく確認できない場合がありますので注意してください。

### ① 製品を平らなところに置き、エンジンベースが地面と水平であることを確認する。



※エンジンベースが前後及び左右方向に水平でない場合、オイルを正しく確認できないので注意してください。オイル量はエンジン型式で異なりますので、詳細は取扱説明書を参照してください。

### ② オイルゲージを引き出して、ウエスでふき取った後に下図のように差してオイル量を確認する。



- ・オイルの量が不足している場合は、継ぎ足して適量になるように調節してください。
- ・オイルの色が黒く汚れている場合は、継ぎ足しをせずに交換してください。
- ・オイルゲージの位置及び形状は製品型式で異なります。詳細は取扱説明書を参照してください。

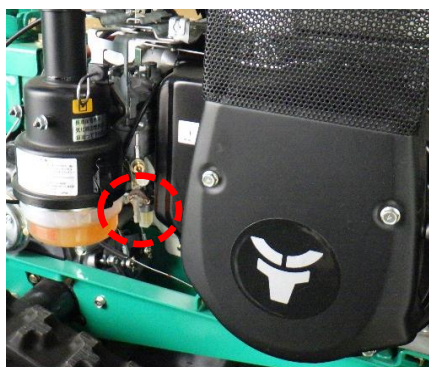
※設備・道具がない場合はお近くの販売店にご依頼ください。

## 燃料コック位置

所要時間：－  
必要な道具：なし

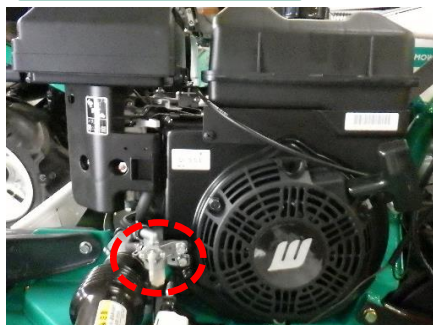
燃料コックは、ガソリタンクからガソリンを流し出すことをコントロールする装置です。  
エンジン始動前に燃料コックを開き、エンジン停止時、輸送・運搬時、長期保管時は燃料コックを閉じるようにお願いします。

### オイルバス タイプ



オイルバスの奥にあります。

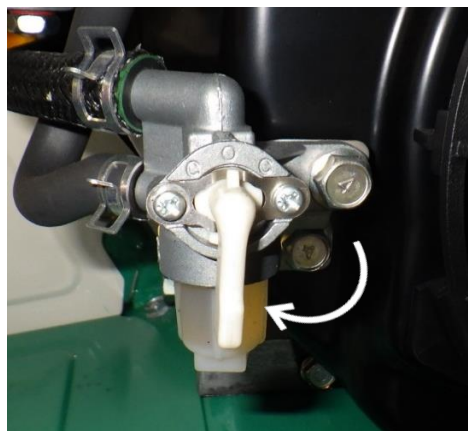
### 乾式 タイプ(三菱)



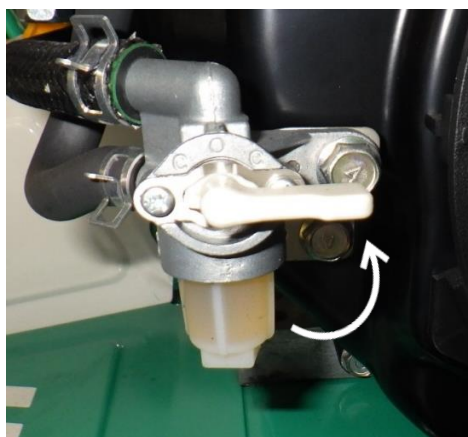
### 乾式 タイプ(カワサキ)



### 燃料コックを開く



### 燃料コックを閉じる



## エアクリーナーの清掃方法

所要時間：10分

必要な道具：コンプレッサー、エアダスター

エアクリーナーの清掃を怠るとエンジンの焼き付きや不調等の**重大な故障の原因**となります。  
定期的な確認・清掃作業を行うようにお願いいたします。

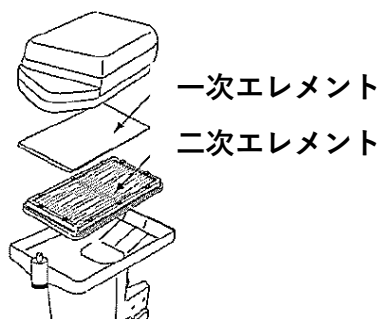
### オイルバス方式の場合



写真の図示部のクランプを外し、オイルパンを外してください。オイルパンの中の泥や草屑などをきれいに洗浄し、新しいエンジンオイル（SAE10W-30相当）をレベル線まで入れてください。

エレメントは中性洗剤などで洗浄・乾燥をしてください。その後新しいエンジンオイルに浸してから、余計なオイルを振り落として、元通りに組み付けてください。

### 乾式エアクリーナーの場合



写真の図示部のネジを外し、カバーを開けてください。  
エレメントが2つありますので、どちらも軽くたたか、内側からエアを吹いてホコリを落としてください。汚れや劣化がひどい場合は、新品への交換をお願いいたします。

背面の爪をしっかりとひっかけたあとにネジを締め、元通りに組み付けてください。

※設備・道具がない場合はお近くの販売店にご依頼ください。